

別府ツーリズムバレー構想推進協議会委員委嘱式及び第1回総会 要旨

【開催日時】

令和元年8月27日（火） 13:30～15:40

【開催場所】

別府市役所1階 レセプションホール

【出席者】 敬称略

○委員（17名）

池田 佳乃子、伊藤 靖生、岡田 祥伸、甲斐 一義、神野 康弘、樹下 有斗、
関谷 忠、千壽 智明、竹尾 真由美、西田 陽一、橋本 栄子、堀井 壮太、
牧 昌生、宮脇 恵理、柳川 雄飛、山本 修司、レザー イフタカー

○事務局等 別府市総合政策アドバイザー 今村 正治

別府市副市長 阿南 寿和、経済産業部長 外5名

【概要】

○委員委嘱式

委員19名（出席委員17名）に対し、別府市長 長野恭紘が委嘱状を交付

○第1回総会

(1) 開会あいさつ 別府市長 長野恭紘

(2) 会長、副会長等選出

会長：関谷委員、副会長：宮脇委員、会計監事：倉原委員・堀井委員

(3) 別府ツーリズムバレー構想について

事務局から、構想の背景・目的等について説明（別紙資料）

(4) 別府ツーリズムバレー構想の実現に向けた意見

今村アドバイザーから、構想を実現するにあたり、別府の強みや旨味を活かせる内容に、などの意見をいただいた。

(5) 委員からの意見聴取

事務局、今村アドバイザーの話を受けて、委員からの主な意見は以下のとおり。

- ・仕事を通じて感じることで、「つながりが見える化」していないことが地域の課題。つながりが見える化することの先にアクションが生まれる。そのきっかけを作れる仕掛けを提供できればと思う。
- ・別府FANクラブは、良いと思う。別府を応援する人というのが必ずしもそこに住んでいる人とは限らない。市外に住んでいる方でも別府を応援したいという気持ちがあれば関わると言う、つながり方・支援の仕方を作れることはすごく魅力的で別府ならではの事だと思う。

- ・別府には優秀な人材と面白い事を展開できるフィールドがあると考えている。ツーリズムバレー構想では「ユニークさ」がひとつポイントになると思う。「ないことをやっていく」チャレンジングな取組をしていきたい。面白い事を今後自分たちで作っていく、そんなところに人が集まってくると思う。
- ・APUの多彩な国の人がいるという価値をもっと顕在化できるのがこの別府なのではないかと思う。APUだけではなく様々な変わった人たちがいるこの別府でやっていくことが日本 アジアを引っ張っていくことであり、ツーリズムバレーを実現する事に繋がると思う。
- ・別府という地域資源がいかに県外の方に魅力があるのかという事を常日頃から感じている。
- ・別府という地に住む方々が別府ならではの感性を持っている方も沢山いて可能性を感じている。
- ・APUは国際大学ということで91の国・地域から学生が在学をしている。調べたところそのうち日本人学生は半分。その日本人学生は47都道府県全てからきている。自然に別府に全都道府県の生徒が集う大学になった。学生が全国から集い、また全国に散っていく。このことの意味や可能性を考えることがいま議論になっていることにも繋がると思う。
- ・もともと別府の地だけでなく世界各地で起業しているのがAPUの学生。人と人をつなぐ仕事を別府や各地で起業している。起業の形。それは別府においても変わってきていると思う。
- ・いかに人を育てるかということが今後地域の発展に繋がっていくと思う。
- ・「別府は実験の場」だという事を聞く。すごく表現の自由があって色々な方々が自分らしさを自由に表現していてプロトタイプ出来る町というのが別府ならではのと思った。実験場としての土壌をいかに作っていくか。
- ・環境、空気感は大事だと思う。なにか新しい事にチャレンジしやすい空気感、面白い事がこの場所で常に新しく何かあっているという空気感を作ることが大事だと思う。
- ・この構想は壮大で、わくわくする部分と不安な部分が入り混じった感情を持った。別府が元気になる事を、この協議会を通じてこれまでの考えや経験等に基づいて考えていきたい。
- ・新規開業も必要だが事業承継も大事。産業自体がなくなってしまう。
- ・地元を卒業し、東京・大阪へ出て行った学生は帰ってこない。やはり別府を魅力的な町にしないとなかなか帰ってこない。
- ・「モノからコト」、今まではモノに対しての金融支援、例えば担保を取ったりという事をしてきたが、そこから脱却しコトに対してのファイナンス支援をしている。
- ・付加価値が別府は低いと感じる。もっと付加価値があげられるはずなのになかなか上げることができない。ぜひツーリズムバレーを通じて人材育成をし、付加価値・ポテンシャルが上げればと感じている。
- ・ツーリズムバレーを盛り上がらせていく時に一番人が集まってひきつけ合い、そしてそれが繋がるような仕組み。そしてそれが結びつく仕組みを作っていくのが、ひとつ大切なポイントになると改めて感じた。
- ・今の人たちの生活の中では長期滞在、身体を癒す事はほかで出来るようになってしまったので、それ以外の温泉で癒す魅力が必要。
- ・もう一度学びなおしに来るような学校ではなくてもそれに似た施設があれば本当がいい。

以上